

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2014年11月)

1. 内政

(1) 政党の動向

ア 1日, 独立党は会合で, 30日の大統領選挙決選投票で同党はFA, 国民党のいずれも支持しないことを正式に決定した。報道によれば, 同決定につきミエレス独立党代表は, FAと国民党はいずれも独立党を代表するものではないからであると述べた。

イ 3日, ラカジェ・ポウ国民党大統領候補及びララニャガ副大統領候補はモンテビデオのコロラド党本部を訪問し, 同党全国執行委員会(CEN)会合に出席した。同会合では, 10月26日の大統領選挙第一回投票におけるボルダベリー候補の敗北を受け, 決選投票ではコロラド党は国民党を支持することが正式に決定された。

(2) 世論調査

30日の投票日前に当地主要世論調査会社が実施した大統領選挙決選投票の投票動向に関する調査結果は次の通り。

ア 質問項目:「次の大統領選挙決選投票であなたはどちらの候補に投票しますか。」

イ 回答集計結果

	FACTUM 社	Cifra 社	EQUIPOS 社	INTERCONSULT 社
バスケス FA 候補	53~55%	52. 2%	54. 5%	50. 0%
ラカジェ・ポウ 国民党候補	39~41%	37. 8%	40. 0%	39. 0%
白票, 棄権, 分からない	5~7%	10. 0%	5. 5%	11. 0%

(3) 大統領選挙決選投票

ア 30日, 大統領選挙決選投票が実施された。有権者数は2, 620, 791人で, 全開票数は2, 321, 375票, 投票率は88. 58%であった。

イ 開票の結果, バスケス FA 候補が1, 241, 568票, ラカジェ・ポウ国民党候補が955, 741票を獲得, バスケス候補の得票がラカジェ・ポウ候補の得票を上回り, バスケス候補が次期大統領に選出された。またセンディック FA 副大統領候補が次期副大統領及び上院議長に当選した。

ウ 選挙裁判所公表の開票結果によれば, バスケス FA 候補の得票は全開票数の53. 48%, ラカジェ・ポウ国民党候補の得票は41. 17%であった。また両候補への有効票を除く白票, 無効票の合計は124, 066票で, 全開票数の5. 3

4%を占めた。

2. 外交

(1) 要人往来

- ア 1日、アルマグロ外相がコロンビア・カルタヘナを訪問し、太平洋同盟とメルコスールの閣僚級会合に出席した。同会合の目的は、両地域統合機構の情報交換及び両機構間で可能な協カスキームを模索することであった。アルマグロ外相は会食における演説中、今後太平洋同盟とメルコスールが協働していく見通しを強調し、またウルグアイがオブザーバーとして、数か月前から太平洋同盟と具体的なアジェンダを実行している旨述べた。
- イ 2～4日、アルマグロ外相がカリブ諸国外遊の一環としてキューバを公式訪問した。2日、同外相は第32回ハバナ国際見本市のウルグアイのスタンドの開会式に出席した。また3日、ブルーノ・ロドリゲス・パリージャ・キューバ外相と会談し、両国の良好な関係を確認し、地域情勢等につき意見交換した。さらに4日、リカルド・カプリサス・ルイス・キューバ閣僚評議会副議長を表敬した他、ロドリゴ・マルミエルカ・キューバ貿易投資大臣と会合し、貿易促進に関する覚書に署名した。
- ウ 4～8日、アルマグロ外相がジャマイカ、グラナダ及びバハマを訪問し、各国外相と会談した。会談では、米州諸国の会合の場としての米州機構(OAS)の重要性及び同機構の他の地域機構とのより良い関係構築の重要性につき合意した。また、農業、人材育成、観光、スポーツ及び気候変動対策のための研修等が協力関係において最優先分野であることを確認した。
- エ 7日、ムヒカ大統領がブラジルを訪問し、ルセフ大統領と会談した。ルセフ大統領にとり10月26日に大統領に再選されて以来最初の首脳会談となる。今次訪問は、ウルグアイ・伯間での電力の相互供給、「ウ」政府が計画しているロチャ県大西洋岸における深水港建設への伯からの投資等につき伯政府と協議することを目的としたもの。首脳会談の内容につきムヒカ大統領は、両国間での電力の相互供給、インフラ、生産統合、地域の発展をルセフ大統領と話し合ったと述べた。
- 「ム」大統領は、「ラテンアメリカの統合は決して終わらない。数世紀の間お互いを見るよりもヨーロッパ、米国の方を見て過ごしてきた我々ラテンアメリカの文化が向かう先を変えるのは簡単ではない。地域の統合へ向けた闘いは長く続くことになる。」と述べた。

(2) 二国間関係

- ア 10日、ウルグアイ政府はメキシコ・ゲレロ州イグアラ市で発生したアヨツィナパ教員養成校学生43名の襲撃・行方不明事件に関する声明を発出した。声明で

ウルグアイ政府は、右襲撃・行方不明事件に対する深い失望の意 (consternación) を表し、犠牲者の家族、友人及びメキシコ社会全体に連帯すると述べた。また同声明でウルグアイ政府は、ラテンアメリカ・カリブ全人民に対し、右事件を含め、アメリカ大陸の平和を脅かすあらゆる暴力を拒絶するよう呼びかけるとともに、司法より人権が回復され、メキシコに恒久的な平和が訪れることを切願すると述べた。

イ 23日付大統領府プレスリリースによれば、ムヒカ大統領は「メキシコ及び中米諸国は犯罪組織による麻薬取引の代償を支払わされているが、これらの国家は失敗国家ではなくまた今後も失敗国家になることはない。メキシコ及び中米には先植民地時代からの歴史基盤があり、現在の困難を乗り越えられる政治資源を有するからである。」と発言した。

右発言は、21日付ウェブ版『フォーリンアフェアーズ・ラテンアメリカ』に掲載されたムヒカ大統領へのインタビュー中、メキシコ・アヨツィナパ事件に関し同大統領が「遠く離れた場所から見る人間にとっては、このような恐ろしい事件は、公権力が犯罪に蝕まれコントロールを失った失敗国家で起きる類の出来事ではないのかという印象を与える。メキシコにとり痛ましいことであり、メキシコが倫理と道徳をもってこの事件に応えたい。」と述べたことを受けてのもの。

なお同インタビューに関しメキシコ外務省は23日付でプレスリリースを发出、ムヒカ大統領の「失敗国家」発言に「驚きと断固たる否定」の意を表し、ウルグアイ外務省に通報の上、在メキシコ・ウルグアイ大使を呼び出したと発表した。

(3) その他

25日に公表された外務省報告書『ウルグアイ外交200の成果：2010－2014』によれば、ムヒカ政権5年間におけるウルグアイ外交は、外交に関する諸原則に対する忠実さ、在外ウルグアイ人の権利保護及び領事サービスの近代化、外国通商の活発な展開及び投資誘致、地域統合プロセスへの積極的な関与、国家の改革の5つの基本方針に基づいて行われてきた。同報告書は、右5つの基本方針に基づく外交活動に関し、回顧と展望を記述したもの。

3. 社会

(1) 治安関係

ア 内務大臣が少年犯罪が減少傾向にあることをアピール

ボノミ内相は、閣僚審議会にて、2012年から2014年にかけて窃盗、強盗及び殺人の全事件に占める少年犯罪の割合が減少したと発表した。2013年の公式統計ではモンテビデオ県内における少年犯罪の52.1%が強盗、26.1%が窃盗であった。

イ 内務大臣が南米内での治安の良さをアピール

国連が世界における犯罪統計を発表したことに伴い、ボノミ内相は、10万人当たりの殺人事件発生件数でウルグアイはチリに次いで低い水準にあると発表し、治安悪化に対する批判が続く中、他の南米諸国と比較してウルグアイは治安が良いとアピールした。

ウ 「変革のための同盟」党の党首宅から銃器が60丁以上押収される

マルセロ・フエンテス・「変革のための同盟」(Union por el Cambio)党の党首宅から60丁以上の銃器が押収された事件で、同銃器全てが違法に所持されていたものであることが確認された。銃器不法所持により、新銃法が適用され、同人は起訴された。なお、同人は収集家としてだけでなく、銃所持及び銃携帯の許可もされておらず、また押収された銃器の中には登録番号が偽造されたり、消されたりしていたものが含まれていた。更には盗難被害届が出されていた銃器も発見された。フエンテス党首は本年6月1日の党内予備選挙で大統領候補に出馬。得票が500票に満たなかったため10月26日の本選出馬資格は得ていない。

(2)その他

18日、ムヒカ大統領、エルリッチ教育文化大臣、カランプラ・カネロネス県知事及びダニエル・ビダル氏は、「ダニエル・ビダル文庫建築コンクール」開始式典に出席した。94歳になるビダル氏は人類学者で、所蔵する書籍及び人類学文献約7,000点をウルグアイ政府に寄贈、国家の保存管理のもと一般公開する計画を立ち上げた。同氏の蔵書を収める図書館はカネロネス県サリナス市フォルティン・デ・サンタ・ロサに建設される予定で、今後建築家及び建築技術者への公募が行われる見込み。

ビダル氏は式典で、「初等義務教育から大学まで、自分は国家による無償の教育を受けてきたが、その間国家は自分に何も要求しなかった。自分は国家に借りがある。蔵書寄贈により、国家が自分に与えてくれたものに対する支払いをしたい。」と述べた。ビダル氏は「読書する農民」(un paisano con lecturas)として知られ、ムヒカ大統領のブレーンの一人とも言われる人物。